飯田日中友好協会
満蒙開拓語り部の会
（作成：小林 勝人）

長野県下伊那地方の満蒙開拓に拘る歴史年表(その1 終戦まで)

注： 長野県及び下伊那地方に拘わる事項は黒色で、 国内外の事項は〈 〉内に青色で記載した。

1905(明38)	
9月 5日	〈日ロ戦争で日本が戦勝国となり9月のポーツマス条約でロシアから中国東北部の旅順、大連など関東州の租借権を譲渡され加えて長春・旅順間の南満州鉄道経営権を獲得〉
1915(大 4)	
5月 9日	〈中国に対して二十一ヵ条を要求し、南満州、東部内モンゴルにおける日本の権益を獲得〉
1917(大 6)	
	〈ロシア革命、1919年6月8日ソ連が帝政時代の満州の特権を放棄〉
9月27日	9月27日～10月26日 鮮支旅行 支那実業視察団 22名、 主な参加者 樋口秀雄・野原半三郎・吉川亮夫・中原謹司・伊原五郎兵衛・下平政一。
1922(大11)	
	信濃海外協会設立、 総裁 県知事 副総裁 信濃教育会会長。
1923(大12)	
	ＬＹＭの結成、自由青年連盟の改組、「第一線」「政治と青年」を発行。（1924.3.17検挙19名）
1924(大13)	
	〈米国排日移民法の成立（北米、南米への移民困難となる〉
10月26日	下伊那郡国民精神作興会設立、 北原阿智之助（上郷）・大平豁郎（千代）・森本洲平（松尾）等、思想善導。
1928(昭 3)	
6月 4日	〈張作霖爆死事件、11月中国共産党満州省委成立、満州民衆に排日を呼び掛ける〉
1929(昭 4)	
6月10日	〈拓務省設置、朝鮮総督、台湾総督、関東庁、南洋庁ほか統括、1942年に**大東亜省に編入**〉 〈世界恐慌の影響が日本に及ぶ、国内の失業者増大、農村不況深刻化〉 繭価暴落 長野県下 繭価格／１貫目：大14年／10.14円→昭 4年／ 6.49円→ 昭 5年／ 2.55円
1931(昭 6)	
9月18日	満州事変勃発、関東軍柳条湖の鉄道線路爆破、奉天占領、15年戦争の出発点となる〉 南信国民大会 飯田劇場にて、＊ 決議文「国論ヲ喚起シ満蒙国策大儀ヲ敷クベシ」中原謹司。
1932(昭 7)	
1月	満州愛国信濃村建設趣意書 県が作成。
3月 1日	満州国建国、首都長春→新京と改名、関東軍「移民方策案」「日本人移民案要綱「屯田兵制民案要綱」作成。拓務省はそれを受け「満州移民案の大綱」等、閣議に提出し、臨時議会通過〉 〈満州農業移民正式募集開始〉
5月 2日	〈国際連盟リットン調査団一行、新京到着〉
8月 1日	満州愛国信濃村建設資金募集 県全体で10万円 一戸平均35銭。
8月 6日	信濃教育会主催満州視察 座光寺小学校長 林 重春参加。
10月 3日	〈第一次武装農業移民、492人神戸港出発、東北,北陸,関東の在郷軍人中心,永豊鎮入植,後に弥栄村〉
10月14日	上記、武装移民ジャムスへ着く、長野県内39人。
1933(昭 8)	
1月	青年代表満州視察,２週間、翌年(1934.8) 同視察団派遣、翌々年（1935.10）同視察団派遣。
2月11日	弥栄村開拓団入植式 吉林省、長野県など11県の在郷軍人会主体493人
2月 4日	2.4事件（教員赤化事件）６０８名検挙（内教員108名、下伊那7名）
3月27日	〈日本国際連盟を脱退（国際連盟より、軍を満州より撤退させるよう勧告されて脱退）
7月 5日	〈第二次武装農業移民455人原宿駅出発千振村へ。以降第３次４次５次と続く（計2989人を送出） 東宮鉄男「新日本の少女よ大陸へ嫁げ」を作詞〉
7月25日	千振開拓団入植式（吉林省） 在郷軍人会が送出母体 1943年時点で1870人 県内 235人
8月20日	8月20日～9月24日 信濃教育会主催満州移民地視察 飯田中学校長 小山保雄参加。
1934(昭 9)	

3月 8日	〈土竜山事件〉→注参照
7月29日	7月29日～9月18日　第三次信濃教育会主催満州移民視察　飯田中学校長　小山保雄参加。 少年武装移民全国で13名入植　内長野県3名　翌年19名
9月	〈第一次武装農業移民団の「大陸の花嫁」30名ハルピン到着〉
1935(昭10)	
5月 7日	〈拓務省「満州農業移民根本方策に関する件」を決定〉
6月	〈第二次武装農業移民団の「大陸の花嫁」130名現地到着 信濃海外協会松尾支部設立　　支部長 吉川亮夫村長
12月11日	12月11日～13日 移植民講習会　会場　信濃教育会館
1936(昭11)	
2月26日	〈２・２６事件発生,満州国移民事業に反対の高橋是清蔵相暗殺〉
4月 1日	長野県更科農学校→長野県更級農業拓殖学校に改称。拓殖科を設置。
6月21日	下伊那町村会長主催「満州信濃村建設ニ関スル郡市協議会」会場飯田商業学校
7月 2日	7月 2日～ 5日　移民宣伝映写会、座談会 会場 2日市田小学校 3日竜丘小学校 4日大下条小学校 5日会地小学校
8月25日	〈広田内閣[七大重要国策決定]　(開拓移民20年／100万戸計画)、満州移民が国策となる〉
10月 4日	第5次黒台信濃村入植式　東安省　母体　長野県　終戦時357戸 1640人
11月12日	昭和12年度満州農業移民ニ関スル郡単位協議会　上飯田町役場会議室 範囲下伊那郡。
11月	11月～翌年 1月　松島親造（吉林省日本領事館朝鮮課長、市田出身） 「満州農業自由移民指導要綱（案)」発表
1937(昭12)	
1月15日	1月15日～2月 移植民講演会並映画会開催　内容満州等。
2月16日	三穂村経済改善委員会で「満州三穂分村計画」を樹立。
3月11日	松島自由移民40名壮行会、出発。
3月16日	江密峰松島開拓組合入植式　吉林省　送出母体下伊那町村会 組合長　坂牧加助（市田）最終人数28戸 115人。
3月16日	水曲柳開拓団入植式　吉林省　送出母体下伊那町村会 団長　今村　清（竜丘）　最終人数226戸 1092人。
3月16日	白山子松島開拓組合入植式　吉林省　送出母体下伊那町村会 組合長　岩間信好（下久堅）　最終人数32戸 95人。
4月 1日	満州国農業移民助成規定作成　下久堅村 10年に150戸を移植こと、1戸につき渡満奨励金として50円を交付すること。
4月 1日	高山子満鉄鉄道自警村入植式　錦洲省　送出母体　長野県 終戦時29戸 119人。
4月	下伊那郡西部四カ村1,100戸を目標に阿南郷協議会を結成。
4月30日	「少年満州農業移民募集ノ件」学務部長名で通達　各市町村・各学校長宛 年齢15歳～18歳　家族構成2～3男　個人出資金30円。
7月	下伊那町村会下伊那郷建設　300名移民の具体化急ぐ。
7月 7日	〈廬溝橋事件発生、日中全面戦争に入る、農村の労働力不足深刻化〉
7月12日	聯合村満州移民協議会　龍江村役場にて、参加村 下久堅・上久堅村・龍江村・千代村・泰阜村。
7月28日	県、満州開拓青少年移民募集義勇軍割当、下伊那郡　1938／26人、　1939年／260人。 飯 田 市　1938／ 5人、　1939年／200人。
8月31日	〈満州拓殖公社　設立〉
10月	泰阜村満州視察団を派遣。
10月29日	10月29日～11月 1日 第６次本隊選考会　飯田市役所で実施 満州国竜峡郷建設大綱、参加村　竜丘村、川路村、三穂村、下條村、富草村、大下条村。
1938(昭13)	
2 月	〈満州国国家総動員法を公布〉
4 月	〈農林、拓務両省による「分村移民計画」が成立〉 注：海外移住民政策から農村経済攻勢対策の一環へ。 〈満蒙開拓青少年義勇軍（隊）の本格的募集始まる。4月10日青少年義勇軍5000人渡満開始〉 〈拓務省「大陸の花嫁」募集、満州移民協会「大陸の花嫁」2400人を募集〉 〈拓務省が府県主催の女子拓殖講習会へ助成を開始〉
3月13日	昭和13年度第７次満州信濃村建設先遣隊選考、会場 飯田市役所

範囲は上下伊那、応募者44名、内合格者41名。
分村移民全国で始めて、満州大日向村建設を建設。
満州天龍郷分郷計画　喬木村ほか　４村。
満州国阿智郷分郷計画　清内路村ほか４村。

3月22日　中和鎮信濃村開拓団入植式
浜江省延寿県中和鎮　送出母体　長野県 団長 松村朝信（松尾村）
＊ 終戦時人数　282戸　1164人　内下伊那51戸　229人

3月23日　義勇軍内原訓練所入所（先遣隊）祈願祭・壮行会ののち長野市中行進
県全体で510名　飯田下伊那は城下グランドで壮行会

4月 5日　川路村村民大会で分村を決定（下伊那地方最初の分村決定）

4月15日　松島移民団83名出発

5月 7日　千代村村会議員・区長・農会産業組合在郷・青年会を集め満州移民について協議会を開く。

5月15日　5月15日～6月 7日　下伊那町村会で満州移民実況視察

7月　泰阜村議会分村実施を可決

7月16日　川路村先遣隊17名敦賀港出発

1939(昭14)

1月 8日　〈拓務、農林、文部３省が協力して「大陸の花嫁」100万人計画を樹立〉
「長野県満州分村実行要領」を県が発表

2月　満蒙開拓女子修練所開催日
（満蒙開拓者の配偶者または将来成りたい人の修練所として下記で開催）
・上久堅小学校にて2月15日～21日　・千　代小学校にて2月17日～23日
・泰　阜小学校にて2月19日～25日　・川　路小学校にて3月 3 日～　9日

2月11日　老石房川路村開拓団入植式　浜江省　送出母体　川路村
＊ 在籍人員 134戸 552人　内下伊那 75戸 315人　団長　清水　清

2月11日　大八浪泰阜村開拓団入植式　三江省　送出母体　泰阜村を中心にした近くの村
＊ 終戦時 219戸 1067人　内下伊那飯田 216戸 1054人　団長　倉沢 大発智

2月11日　大古洞下伊那郷開拓団入植式　三江省　送出母体　下伊那町村会
＊ 終戦時 195戸 970人　内下伊那 193戸 961人　団長　大久保　秦（上高井）

3月 1日　窪丹崗千代村開拓団入植式　三江省　送出母体　千代村
＊ 終戦時 109戸 465人　内千代飯田 108戸 454人　団長　清水 直夫（千代村）

3月 3日　新立屯上久堅村開拓団入植式　三江省　送出母体　上久堅村
＊ 終戦時 169戸 789人　全員下伊那飯田　団長　島岡 米男（上久堅）

3月 4日　3月4日～3月25日 長野県分村移住村視察団への参加、清内路,泰阜,智里,浪合,千代,上久堅から参加。

4月10日　「商工業労務者移民について」経済部下伊那出張所長より飯田市長、各村長に文書伝達
注： 1939年における満州小学校設立　（ ）内は16年現在の生徒数
・ 9月 1日　川路小学校　(104人)　・10月 1日　泰阜小学校　(229人)
・12月 1日　下伊那郷小学校　(186人)　・12月 1日　上久堅小学校　(122人)
・12月25日　千代小学校　(95人)

9月 1日　〈独軍ポーランド進撃、第二次世界大戦始まる〉
〈大陸の花嫁養成のための満州最初の開拓女塾開設〉

12月　〈満州移民事業を「日満両国の一体的重要国策」と位置づけた「満州開拓政策基本要領」日満両国の閣議で決定〉

1940(昭15)

満州移民模範県として、勅令で山形、新潟、長野、廣島、熊本に拓務課を設置。
この頃政府内では満州開拓政策の失策論がでる。 労働力不足による食糧生産力が低下。
桔梗ヶ原女子拓務訓練所設立。
9月21日～ 9月23日 上飯田小学校にて下伊那教育会卒業生指導部宿泊訓練講習会

11月27日　11月27日～11月30日 拓殖講習会　下伊那農学校にて　181名

1941(昭16)

4月13日　〈日ソ中立条約調印〉

12月　12月 雑誌「信濃教育」12月号〈興亜教育〉特集号発行　例月の3倍頁

12月21日　12月21日～26日、翌年1月 5日～1月13日　年末から年始に掛け、県開拓課長が下伊那郡の町村を満州開拓の遊説・懇談会に巡回。

12月 8日　〈米、英に対して戦線布告、太平洋戦争始まる〉

〈経済統制政策による都市の失業者・転職者を「大陸帰農移民」として送出〉
12月31日　〈満州拓殖公社の「満州拓殖５ヵ年計画要領」閣議決定〉

1942(昭17)

1月 6日　満州開拓第２期５ヶ年計画要綱発表（全国で開拓民22万戸、義勇隊13万人を計画）
送出計画数　下伊那郡　2280人　飯田市　400人
5月12日　義勇軍、原中隊祈願祭並に壮行会　会場　飯田市城下グランド 後、市内行進
城下グランド→谷川線→広小路→知久町１→飯田駅へ　参加者 5200人
6月20日　満州建国十周年記念講演会並に映画会　会場　飯田市　大松座
8月18日　国の開拓特別指導部の指定を下伊那郡が受ける。全国で12地域、下伊那郡送出基準案作成
11月 1 日　〈大東亜省創設。「満州開拓女子拓殖事業対策」「女子拓殖指導者提要」発表〉→注参照
11月29日　信濃海外協会下伊那支部結成式　飯田商業学校にて

1943(昭18)

下伊那開拓館設立　江戸町二　県より二万円の補助
3月　〈帝国議会貴族院にて「満蒙開拓女子義勇隊制度創設」に関する誓願〉
3月29日　下伊那報国農場入植　東満総省　送出母体　下伊那町村長会
食料増産のための満州建設　勤労奉仕隊・第１次50人 第２次 28人
3月31日　東横林南信郷開拓団入植式　東安省　送出母体　智里村他４ヶ村　分郷組合
＊ 終戦時 113戸 478人　団長　水上 福市（智里村）
4月12日　天皇が地方長官会議で郡山長野県知事に「長野県民の満州開拓移民の状況はどうか」と下問。
4月12日　松尾村議会で「満州開拓単村分村実施ノ件」を村長より提案。
〈更ニ猶調査ノ要アルヲ以ッテ一時保留ト致ス〉
4月30日　濃々河飯田郷開拓団入植　三江省 通河県新立屯（上久堅開拓団の横）
送出母体　飯田市　商業者の失業対策として「転業帰農集合移民」の入植形態で入植。
翌年の1945年 3月14日にも（二回目）19戸入植。
・送出母体　飯田市（旧飯田市）　入植地 三江省通河県新立屯（上久堅分村の隣）
・開拓移民　送出日　1943年4月30日　1945年3月14日の２回（約８割が死亡）
人数　26戸　110人（内復員帰還22人 未帰還4 人 死亡84人）
・勤労奉仕隊　人数　18人（内〈8.10〉出征5人を含む帰還4 人 死亡14人）
・入植形態　転業帰農集合移民　出身地　飯田市 92人 川路村 2人 鼎村 12人 松尾村 4人
・団長　島岡 米男（上久堅団長兼務）　副団長（経理指導）吉川 宗治（箕瀬）
7月26日　〈満映会社「開拓の花嫁」撮影のため、北安省埼玉村開拓団を訪問〉
8月10日　〈大日本青少年団、大日本婦人会が協力して全国から慰問袋20万個を義勇隊に送る運動を始める〉
8月22日　8月22日～ 松尾村主催　満州開拓調査視察団出発　18名　内女性2名参加

1944(昭19)

1月16日　松島親造 葬儀 飯田龍翔寺にて
3月 1日　〈満州農地開拓公社設立〉
3月10日　信濃海外協会を長野県開拓協会に改組　事務所を県庁拓務課におく。役員の内、下伊那関係者
参与 吉川 亮夫、中原謹司，理事 遠山 方景（飯田市長）、代田市郎（下伊那町村会長）
4月 1日　阿智郷開拓団入植式 東満総省　送出母体　会地・伍和・山本
＊ 終戦時 65戸 196人 団長 小笠原正賢（会地村）
7月 8日　〈学童の集団疎開を開始〉
7月30日　第１回竜丘義勇軍父兄会竜丘学校記念会
8月13日　石碑嶺河野村嶺河開拓団入植式 新京　分村移民 送出母体 河野村
＊ 終戦時 24戸 95人 団長 筒井 愛吉
12月12日　結婚斡旋連絡協議会　飯田図書館にて
12月20日　小出佐一　長野県開拓協会を退任し飯田市助役に就任。

1945(昭20)

2月 4日　〈ヤルタ会談（米英ソ）対独戦後処理、ソ連参戦などが決定される〉
3月　河野村嶺河開拓団家族招致完了 24戸 95人
3月10日　〈東京大空襲〉
3月25日　〈満州国は一切の政策を決戦に自戦改正に転換の発表〉
4月 5日　〈ソ連、日ソ中立条約不延長を通告〉
5月 8日　〈ドイツ降伏〉
5月30日　〈大本営「満鮮方面対ソ作戦計画要綱」発令、満州の4分の3の放棄を決める〉

7月10日	〈在満在郷軍人根こそぎ動員〉 注：満州開拓移民は招集免除であったが、5.30の対ソ作戦により在郷軍人に関わらず、18歳以上45歳以下の男子が根こそぎ動員により招集され、開拓団には老人・女性・子供が残される。
7月26日	〈ポツダム宣言(米英中)〉
8月 6日	〈広島に原爆投下〉
8月 8日	〈ソ連対日参戦通告〉
8月 9日	〈ソ連軍満州侵攻開始　午前零時を期し各方面から一斉に侵攻、新京、ハルピン等爆撃〉
8月 9日	〈長崎に原爆投下〉
8月10日	〈大本営命令　「朝鮮は保衝、満州は全土放棄も可」〉各開拓団避難、死の逃避行のはじまる。
8月10日	東安駅事件　関東軍が駅構内を爆破、避難中の開拓団婦女子700人余死亡
8月12日	麻山事件　哈達河開拓団　ソ連軍戦車に襲われ戦死、自決460人余
8月14日	葛根廟事件　ソ連軍戦車に襲われ開拓団婦女子等1000人以上が死亡
8月14日	〈ポツダム宣言受諾〉:「居留民は現地に定着させるべし」の訓令出される。
8月15日	〈日本無条件降伏、終戦〉
8月16日	河野村開拓団集団自決
9月 2日	東京湾上の米戦艦ミズリー号で降伏文書に調印、日本敗戦が確定。

（参考）

注：「女子拓殖指導者提要」では、以下のように明文化されている。

一、開拓政策遂行の一翼として、(イ)民族資源確保のため先ず開拓民の定着性を増強すること。(ロ)民族資源の量的確保と共に大和民族の純血を保持すること。(ハ)日本婦道を大陸に移植し満州新文化を創建すること。(ニ)民族協和の達成上女子の協力とする部面の多いこと。

二、農村共同体における女性として(一)衣食住問題を解決し開拓地家庭文化を創造すること。

三、開拓農家における主婦として(一)開拓農民のよき助耕者であること。(二)開拓家庭のよき慰安者であること。(三)第二世のよき保育者であること。

注：「満蒙開拓青少年義勇軍」は、昭和13年度から開始16歳（中には12,4歳もいたという）から19歳の青少年を茨城県内原訓練所で約2ヶ月訓練をして、満州現地の訓練所で3ヶ年の訓練を終えたものを、開拓民として定着させる。約8万5千人を送出した。応召、軍需労務のため開拓民の送出は計画通り遂行できない状況に立ち至り、対ソ戦防衛のためにも移民政策は中断できないので、一般開拓民のほかに満蒙開拓青少年義勇軍の送出が行われた。この過酷な状況に少年達を送り込むために、日本政府は精神性を付与し「鍬の戦士」と讃えた。「満蒙開拓青少年義勇軍」は、満州国内では中国人の感情を刺激するとの理由で、「満蒙開拓青少年義勇隊」と名乗っていた。妻を必要とするまでには間があったが、昭和14年1月8日には、拓務省、農林省、文部省が協力して、「花嫁100万人」送出計画を発表した。

注：「武装移民団」は関東軍では「屯田兵移民」「在郷軍人屯墾部隊」と呼び、「対ソ作戦上後方の憂いをなくすため」吉林掃匪軍司令部として、「一朝、事あるときは、関東軍司令部の指揮下」で軍事行動を行うことと決めていた。

注：「土竜山事件」昭和９年３月、依蘭県第３区八虎力屯の保長兼自衛団長で大地主であった謝文東が農兵を率いて移民用地収奪反対の武装蜂起に立ち上がり、土竜山を根拠地にして弥栄村・千振村を襲った事件。

＊本年表をまとめる上で、以下の資料その他を参考にした。

① **長野県満州開拓史（長野県開拓自興会 満州開拓史刊行会）**

② **国立総合研究大学院大学 教育研究交流センター、**藤沼敏子氏「中国帰国者問題の歴史と援護施策の展開」

③ 飯田歴史研究所、齋藤俊江氏講義（2003.7.20）「下伊那地方の満州移民送出」

（参考資料）　　各

＊１　満州開拓移民送出人数

終戦時、旧満州に住んでいた日本人は、約155万人（外務省の調査）で内、開拓団関係は次の通り。

									ｋの数値
全国	・一般開拓者	242,300人	長野県	・一般開拓者	26,332人	飯田下伊那	・一般開拓者	7,696人	7,563 人
	・義勇軍	22,800人		・義勇軍	6,942人		・義勇軍	797人	1,011 人
	・その他	4,900人		・その他	457人		・その他		
	計	270,000人		計	33,741人		計	8,493人	8,574 人
				（全国の12%）			（県内の25%）		

＊2 長野県内開拓者の動向

終戦時の戸数	6,693戸
在籍人数	26,244人
1945年8月8日での死亡帰国者	874 人
出征者	3,567人
在団者数(差引)	21,795人
上記の内引揚者	8,822人
死　亡	11,908人
（内女性	6,850人）
未帰還	810人
不　明	156人

（動向の数字は長野市女性史研究会による）

＊3 市町村別満州開拓移民者数（長野県満州開拓史 名簿編より作成）

（町村名）	(A)	(B)	(%)	（町村名）	(A)	(B)	(%)
泰阜	797	5,844	14	平岡	143	4,341	3
上久堅	720	3,650	20	山本	135	4,276	3
千代	505	4,786	11	平谷	138	1,508	9
飯田市	413	29,398	1.4	富草	126	4,256	3
清内路	370	1,953	19	下条	125	5,364	2
喬木	367	9,061	4	浪合	123	1,499	8
上郷	359	7,038	5	下久堅	110	4,889	2
神稲	357	6,305	6	座光寺	103	3,014	3
川路	350	2,567	14	生田	96	2,968	3
智里	273	2,602	10	旦開	69	2,633	3
根羽	249	2,805	9	神原	64	1,858	3
河野	248	2,939	8	山吹	56	3,184	2
竜丘	266	4,645	6	三穂	52	2,506	2
松尾	238	6,512	4	豊	40	3,467	1
伊賀良	218	7,014	3	木沢	39	1,025	4
市田	204	6,698	3	和田	35	1,715	2
大下条	199	3,782	5	大島	35	4,762	1
鼎	191	8,141	2	上	19	2,126	1
龍江	172	4,805	4	八重河内	19	1,041	2
会地	161	3,250	5	和合	15	―	―
大鹿	149	4,968	3	南和田	1	634	―
伍和	144	2,301	6	計	8,493	188,157	4.5

凡例：上表「市町村別送出人数」表の
(A)は移民者数、
(B)は昭和10年の人口数、
(%)は人口比率％を示す。

本資料は、飯田歴史研究所、齋藤俊江氏講義（2003.7.20）「下伊那地方の満州移民送出」より転載。
※ｋの数値は、下伊那郡の渡満数を小林勝人が長野県満州開拓史名簿編より再集約を独自にして作成。
なお、20.8.9以前を含む、渡満人員を再調査した値。（上伊那郡の内、松川町等の現下伊那郡分は、修正して計上。）

（完）